

きょうくん まな コディ、教訓を学ぶ

コディは、ちっちゃな クロクマの子です。お母さんグマと一緒に、ほら穴に住んでいます。コディは、ほら穴の外の空き地で遊ぶのが大好き。お母さんグマはコディに、外に出る時はいつもお母さんから はなれないようにと 注意しています。

「コディ、外には きけんが いっぱいな。だから、いつも お母さんの見える 所に いるのよ。」

コディは「はい」と返事をしました。けれども、日がたつうちに、同じ場所で遊ぶのにあきてしまいました。「他の所も探検できたらなあ。ぼく、もう大きいんだ。いつもお母さんに見てもらうことないよね。」と、コディはつぶやきました。

ある日のこと。お母さんグマがそばの木の 下で お昼寝をしていると、コディはまた 落ち着かなくなりました。あまり遠くない所に、うれて みずみずしい ブラックベリー の しげみが見えます。

(あそこなら 近いぞ。パッと 行っただけなら、お母さんは 全然 気がつかないよね。) と、コディは 思いました。

コディがブラックベリーを食べていると、ウサギがしげみから飛び出しました。
こうふんしたコディはウサギを追いかけましたが、速くつかまりません。ウサギは
まもなく、ピョンと穴の中にかくれてしまいました。

コディが走るのをやめて見回すと、そこは今までにきたことのない野原でした。
辺りには背の高い草と花がいっぱい生えていて、チョウやいろいろな虫がいました。
コディは探検できる新しい場所を見つけて、すごくワクワクしました。それで、遠くに
行かないようにというお母さんの言いつけをすっかりわすれてしまいました。



コディがむちゅうになって探検しながら野原で遊んでいると、日が
かたむいてきました。(大変だ! 家に帰らないと。)

コディは周りを見渡しましたが、どちらに行ったら帰れるのか、
分かりません。コディは不安そうに、何度も何度もぐるぐる回りながら、
どちらから来たのか考えました。

「ぼく、まい子になっちゃったよ！ お母さんの言いつけを守ってればよかったのに。どうしよう？」 コディは思わずさげびました。

「お母さん！ お母さん！」 コディは野原をあちこちかけ回りながら、お母さんをよびました。それでも、お母さんは見つかりません。とうとう、コディは草の上にすわりこんで、泣き始めました。お母さんの言いつけを守らなかったことをごうかいました。

その時です。かすかに声が聞こえました。「コディ、どこにいるの？」 お母さんのよぶ声でした。

「お母さん！ お母さん！ ぼく、ここだよ！」 と、コディはさげびました。

コディの声を聞くと、お母さんグマは後ろ足で立ち上がって、辺りを見渡しました。すると、野原にいるコディが見えました。コディからもお母さんが見えたので、すぐに走って来ました。



「コディ、^みつかつて ^よ良かったわ。すぐ ^{しんぱい}心配して、^{しゅう}そこら中 ^いさがして ^{いえ}いたのよ。家から ^{とほ}こんなに ^き遠くまで ^き来ていたなんて。」

「ごめんなさい、お母さん。むちゅうになって ^{あそ}遊んでいたら、^{ところ}こんな ^き所まで ^き来ちゃったんだ。」と、コディ。

^{かあ}お母さんグマは ^{かあ}コディを ^なだきしめました。「さあ、^{かえ}帰りましょう。コディ、^{かあ}お母さんが ^{なに}何かを ^いしなさいと ^い言う ^{とき}時には、^{りゆう}理由が ^あある ^{こと}ことを ^{わす}れなさい。だから、^い言いつけは ^{まも}守るのよ！」



「はい、お母さん。」と、コディは ^{こた}答えました。

^{あな}ほら穴にもどると、^{かあ}お母さんグマは ^{かあ}コディを ^だだきよせました。
コディが ^{あんぜん}また ^{あな}安全な ^{あな}ほら穴にもどれた ^{かんじ}ことを ^あ感謝しながら、
^{おや}クマの ^こ親子は ^あねむりに ^あついたのです。